

草の根技術協力（草の根パートナー型）事業要約

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	ガボン国
2. 事業名	国立公園を対象とした持続可能な地域参加型エコツーリズム（CBET）普及啓発と開発支援（草の根パートナー型）
3. 事業の背景と必要性	ガボンにはアフリカ中西部のコンゴ盆地に位置し、国土の90%以上を森林が占める自然資源に富んだ国である。森林減少率は過去30年間で1%未満であり、絶滅危惧種に指定されているニンローランドゴリラやマルミミゾウが多く生息するなど生物多様性保全において重要な国である。また、石油やマンガン等鉱物資源に恵まれていることから主要産業はGDPの45%以上を占める石油産業であり、その結果2020年の1人当たりGDPは7,000USDを超えアフリカ諸国の中では高所得国である。他方、将来的に石油が枯渇することが予想され、ガボン政府は脱石油依存のための国力強化を図っている。その1つにガボン政府が国家政策として掲げる「緑のガボン」政策があり、気候変動対策などに加え、国立公園として指定した国土の11%に相当する土地等の生物多様性を生かしたエコツーリズムの振興が重点分野とされている。本事業はガボン政府が重点分野として掲げるエコツーリズム振興に沿った事業であり、2つの国立公園を対象とし実施する。各国立公園の生物多様性などの特性に加え、近隣に居住する地域住民が有する文化を生かしたエコツーリズムを開発し展開することで、エコツーリズムの恩恵を受けた住民も地域資源の重要性を理解し、自らも積極的に保全活動を行うようになる好循環が期待される。
4. プロジェクト目標	ANPN職員が、地域住民や他機関と連携し、CBET開発を実施するための知識と技術を習得し、プロジェクトサイト以外の国立公園でも普及できるようにする
5. 対象地域	ムカラバ国立公園、アカンダ国立公園とその近隣地域
6. 管轄在外公館	在ガボン日本国大使館
7. 受益者層	直接：ANPN職員30名、地域住民等100名、間接：ANPN地方職員150名、ムカラバ・アカンダ国立公園近郊の町の学生500名、他国立公園の近隣地域住民500名
8. 生み出すべきアウトプット及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> アカンダCBETモデルが完成し、エコツーリズムが実現される 先行事業活動地ムカラバにおいて、コミュニティセンター利用とエコツアーを組み合わせたムカラバのCBETモデルが完成する ムカラバとアカンダのCBETモデルを用いて、ANPNスタッフ、旅行会社、地元NGOがCBETの概念と有効性について理解する ムカラバとアカンダモデルを事例としたCBET開発ツールが完成し、ANPN内でその意義と使用法が共有される <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1. 現地予備調査を行い、CBET開発対象地を決定する 1-2. 対象地域住民へのCBET啓発を行い事業への理解を得る 1-3. 観光商品（バードウォッチング、マングローブツアー、森散策など）を開発し、観察ルートを整備する 1-4. 住民ガイド養成のため研修を実施する 1-5. アカンダで活動する旅行会社やNGOと連携し、1-3で開発した観光商品を活用し、一般客や学生を対象としたテストツアーを実施する 1-6. ANPNと観光関係機関が、アカンダで観光事業を進めるうえで必要な役割分担を記したMoUと、今後の運営・管理方法をまとめたガイドラインに同意する 2-1. ムカラバのベースライン調査を実施する（コロナ前後の状況変化にも着目したうえで観光産業に従事する住民比率・収入、観光産業の状況等に関する調査を実施） 2-2. ムカラバで観光客を受け入れているNGOや旅行会社へのヒアリングを実施する 2-3. ヒアリングをもとに、センター展示内容を改良する 2-4. 2-3で改良した展示を、観光客にわかりやすく解説するためのガイド用マニュアルを作成し、住民ガイド研修を実施する 2-5. 旅行会社と共に、コミュニティセンター利用とエコツアーを組み合わせたパッケージを販売するためのテストツアーを実施する 2-6. ANPNが中心となり、関係機関を対象にワークショップを実施し、各団体の役割分担やコミュニティセンターの利用・運営・管理について示したMoUを関係機関で締結、CBET活動継続のためのフォローアップを実施する 3-1. エコロジック専門家、ANPN職員と関係機関職員に対し、CBETの概念と有効性についての研修を首都とアカンダで実施する 3-2. ANPN職員と関係機関職員を対象にワークショップを実施し、先行事業で育成した指導者と住民ガイドが、ムカラバのCBET開発について紹介し開発方法や学びを共有する 3-3. ANPN職員と関係機関職員を対象に、CBETを観光開発に取り入れる有効性を理解し自国における開発に生かすため、第三国における研修を実施する 3-4. ANPN職員と共同で、首都と事業活動地のANPN施設内に、対象地域の自然・文化やCBET活動について紹介する展示を整備する 4-1. ムカラバとアカンダにおけるCBET開発モデルを事例として、CBET開発ツール（教材、写真集、ビデオ等）を作成する 4-2. ANPN職員（各国立公園の保護官・副保護官）、地域に観光客を受け入れる旅行会社やNGOを対象とし、4-1で作成したCBET開発ツールに基づく実践方法についての研修をアカンダのCBETモデル地で開催する 4-3. ANPNが提案する他の国立公園において、旅行会社・NGOと協力しながら担当ANPN職員が新規にCBET開発を開始する
9. 実施期間	2022年3月～2027年2月（5年0ヵ月）
10. 事業費	105,050千円（概算）
11. 実施体制	【日本側】一般社団法人エコロジック、【現地側】国立公園局（ANPN）
II. 応募団体の概要	
1. 団体名	一般社団法人エコロジック
2. 活動内容	CBET開発支援、現地ガイド養成、国内受入研修の実施など